

2 へらそうごみ

③ごみをしよりする工場 (つづき)

③ 焼却工場のしくみはどうなっているのでしょうか

ねらい

焼却工場でのごみ処理のようすについて調べ、大量のごみが計画的に処理されていることを理解するとともに、公害対策や余熱利用など各段階でいろいろな工夫がなされていることに気付くようにする。

◆焼却工場における公害防止対策(その1)

焼却工場では、焼却処理による2次公害を防ぐため、常に焼却設備の整備に努め、公害防止に万全を期している。

①排ガス対策

廃棄物の焼却による排ガス対策には万全を期しており、焼却時の排ガスに含まれるばいじん、窒素酸化物、硫黄酸化物、塩化水素、水銀等の有害物質については、集じん装置や触媒脱硝装置、排ガス洗浄装置等により除去を行い、適正に処理して排出している。

②恶臭对策

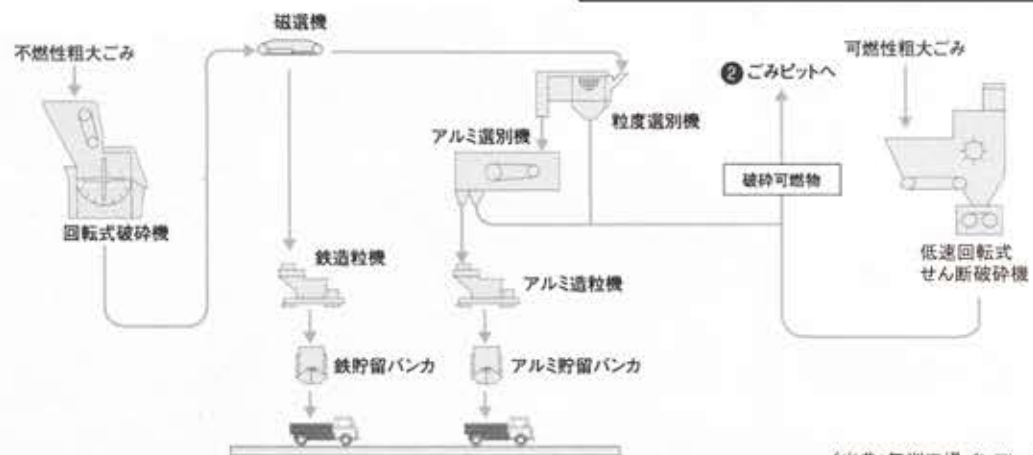
悪臭対策としては、エアーカーテンにより外部と遮断するとともに、ごみを貯めているピット内の空気を燃焼用として焼却炉に押込送風機で吹き込むことでピット内の空気が外部の気圧より低く保たれており、ごみ投入扉を開放しても、ごみの悪臭が外にもれなくなっている。

③排水対策

焼却工場の排水には、プラント排水（焼却灰を冷却するために使った水等）と洗煙排水がある。

これらの排水は、凝集沈殿、ろ過、特殊樹脂による吸着方式等を備えた排水処理装置等によって有害物質を処理した後放流している。

◆粗大ごみ破碎設備のフローシート



(出典:舞洲工場パンフレット)

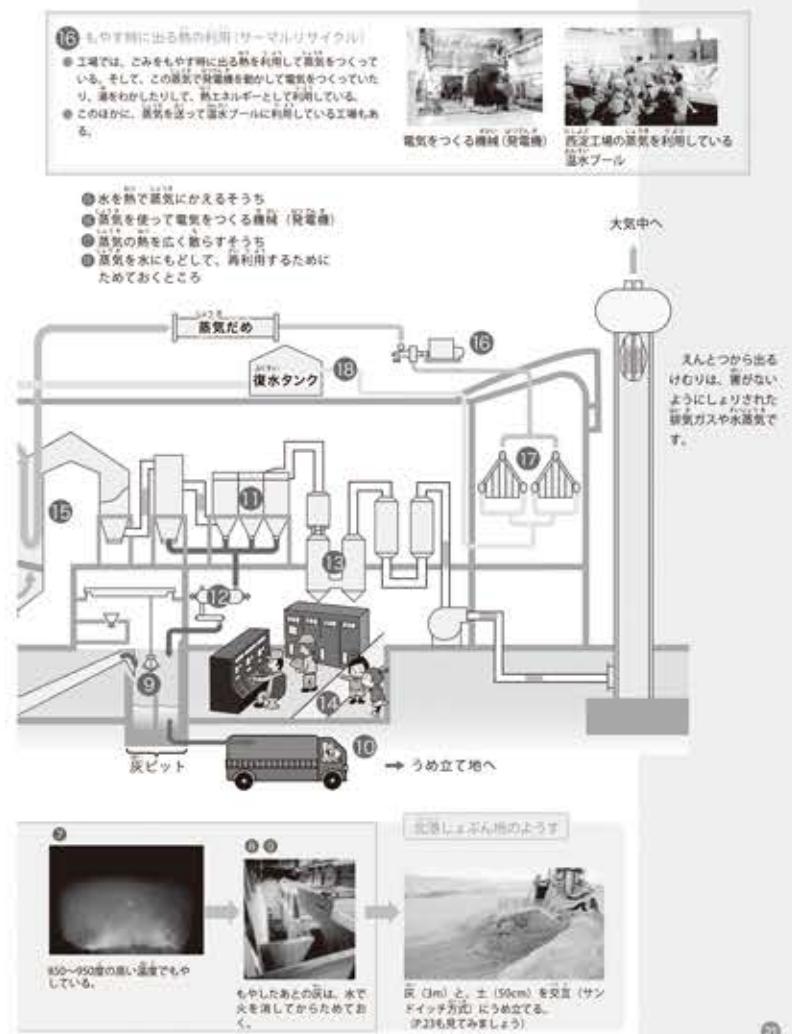
教科との関連

社会 指導計画(第13次試案):
第4学年 2 住みよいくらしとごみ
(5)(6)焼却工場の見学

留意点

○焼却工場のしくみを表した図を拡大したり写真資料を提示したりして、視覚にうったえる工夫をすることにより、ごみが燃やされるようすを実感的にとらえることができるようにする。(プロジェクト等で拡大映写して活用すると効果的である)

○働く人の勤務時間を図式化し、P.30「焼却工場で働く人の話」を読んだ後に、働く人の思いをふきだしにして書くことにより、思いに迫るようにする。



書くことにより、思いに迫るようにする。

○ダイオキシンなどの公害対策や、サーマルリサイクルなどの余熱利用に着目し、大阪市や焼却工場の努力や工夫を理解できるようにする。

○焼却工場で出た大量の灰がどのように処理されているのかを予想し、関心を高めるようにする。

◆焼却工場における公害防止対策(その2)

④ダイオキシン類対策

ダイオキシン類の発生のメカニズムや、人体に与える健康影響については、現在各研究機関などで鋭意研究が進められているが、その全容は未だ明らかになっていない。しかしながら、ダイオキシン類はものを燃やす際に低温で不完全燃焼したときに発生しやすくなることから、ごみ焼却工場においては、その発生を極力抑えるため、約850～950℃という高温で、ごみを完全に燃焼させている。また、従来から環境省の指導に基づいて様々な対策を行ってきた。

⑤その他の対策

焼却工場から発生する騒音については、低騒音型の機器を屋内に設置し、防音壁・防音材等により対処している。

◆焼却工場における余熱利用

環境施設組合では6か所の焼却工場すべてに、ボイラが設置されており、ごみを燃やす時に出る熱を利用して蒸気を作っている。この蒸気で、蒸気タービン発電機を回して電気をつくり、焼却工場内で使用するほか、鶴見工場、西淀工場、平野工場では隣接する市の施設やプールに、八尾工場では八尾市立衛生処理場に電気を送るなどしながら、余剰電気は電力会社に売却している。

蒸気は、焼却工場内の暖房や給湯に利用するほか、西淀・八尾・舞洲工場では近くの温水プール・汚泥処理場等に供給している。

このように、廃棄物を焼却処理する際に「熱エネルギー」という形で回収することもリサイクルの一形態であり、これを『サーマルリサイクル』と呼んでいる。

2 へらそうごみ

④資源ごみのゆくえ

留意点

- 資源ごみのリサイクルの方法や仕組み、リサイクル選別施設等について調べ、資源を有効に使うことの大切さを理解できるようにする。
- アルミ缶やペットボトルなどの具体物を提示し、何に生まれかわるのかを自由に話し合い、予想できるようにする。
- リサイクル選別施設での処理のようすについて調べ、資源ごみの再利用について理解できるようにする。

◆参考ビデオ「ごみ減量アクションプラン～市民の行動メニュー～」

身近にできるごみ減量の取り組みを紹介
問合せ先：各環境事業センター（P64）

アルミ缶→再生アルミ缶やアルミ製日用品など
スチール缶→建設物用鉄筋など
びん→新しいびんや舗装材など
ペットボトル→衣料品や卵パックなど

④ 資源ごみのゆくえ

資源ごみはどのようにリサイクルされるのでしょうか

分別し、回収されたごみはどうなるのでしょうか。資源ごみのゆくえについて調べましょう。

⑤ ごみをもやした後のしより

ごみをもやした後の灰のしよりはどうしているのでしょうか

夢洲のうめ立て

大阪市では、夢洲の一部にコンクリートでかこいを作って、ごみをもやした後の灰などでうめ立てをしています。

うめ立て地では、ブルドーザーを使って、灰と土をサンドイッチのように積み重ねていきます。このようにすると、熱で、ハエのたまごやばい菌などが死んで、安全になります。

また、うめ立て地では、よごれた水をきれいにして、海をよごすことのないように努力しています。

しかし、夢洲にはうめ立てられる土地がもうほとんど残っていません。

容器包装プラスチックのゆくえ

収集

異物除去

民間の会社の選別施設で手作業により汚れたものや容器包装プラスチック以外のものを取り除きます。

圧縮梱包

圧縮・梱包します。

再商品化 (リサイクル)

パーキングストップや寝木などに再商品化されるほか、熱分解してガスを取り出し、化学工業の原料や燃料にリサイクルされます。

⑤ごみをもやした後のしより

ねらい

埋立処分地のようすやそこで働く人びとの仕事のようすを調べ、大阪市では焼却後の灰などを衛生的に処理するために、いろいろな工夫や努力をしていることに気付くようにするとともに、そこで働く人びとの仕事の意味や、近隣・府県・市との協力的取り組みについて正しく理解できるようにする。

教科との関連

社会 指導計画(第13次試案):
第4学年 2住みよいくらしとごみ
(9) 燃やした後の灰のゆくえ

◆「埋立地」の地図をもとに、埋立地の位置や広さについて話し合う。

- ・位置…大阪湾、陸地から遠方
- ・面積…広大(甲子園19個分)

焼却工場からトラックに積みかえ、埋立地へ運ぶ。

1 運搬作業

運んできた焼却灰は、ここで船に積み替え埋立処分地に運びます。

2 埋立作業

焼却灰(3m)と、土(50cm)を交互にサンドイッチ方式に埋め立てます。

1 運搬作業(過去)

船に積んだ焼却灰は、汚染しないようにシートでおおひ、陸揚げします。

※一部工場の焼却灰については、海上輸送により埋立処分していません。

◆北港処分地における公害防止対策

①害虫対策(サンドイッチ方式の埋立)

陸地化した部分では焼却したあとの灰などを山土で覆土するサンドイッチ方式の埋立を行っており、ハエなどが成虫になる前に適切に覆土することによって、灰から発生する熱により害虫の発生を防止している。

②発生ガス対策(ガス抜き装置)

平成12年度末までは、不燃性ごみと分離できない可燃性ごみも一部搬入されていたため、腐敗する際に熱やガスが発生している。廃棄物層から発生するメタンガスなどは、放置しておくと火災・爆発・悪臭の原因となることから、ガス抜き装置を設置し大気に拡散し除去している。

2 へらそうごみ

⑤ごみをもやした後のしより(つづき)

留意点

OP23の写真を見て海の中に囲いをしてごみの埋立地を造るので、過去には船で焼却後の灰を運んでいたことを補説する。(現在は全てトラックで運搬)

OP30「うめたて地で働く人の話」から、厳しい環境下でのごみ処理の仕事であることに気付くようにする。

○現在使用中の夢洲(北港南地区)にも限りがあり、その後の処分地確保が非常に困難であるので、市民のごみの減量についての協力が必要であることを補説する。

○「大阪湾フェニックス計画」を例にして、限りあるうめたて地を確保するため、近隣府県や市町村とも協力しあっていることに気付くようにする。

○大阪湾フェニックス計画には、廃棄物の適正処理と造成した土地の活用による都市の活性化の両面があることに気付くようにする。

◆大阪湾フェニックス計画



③汚水対策(フローティングエアレーター、凝集沈殿装置)

焼却したあとの灰等の埋立に伴って生じる汚水については、埋立地内に「よごれた水をきれいにする機械」(エアレーター)を設置し、ばっ気処理をしている。また、さらに高度な処理を行うために凝集沈殿装置を設置し、海を汚さないため汚水処理をしている。

④灰などの飛散防止対策

埋立地では、徹底した覆土により、焼却したあとの灰などが飛散するのを防いでいる。

⑥ごみをへらすためにわたしたちにできること

①リデュース

留意点

OP.25～P.27の絵を見て、ふだんの生活と比較しながら話し合い、3Rについて関心を高めるようにする。

○まだ使えるものを大切に使っているか、給食の食べ残しをしていないかなど、ふだんの生活がごみを減らす行動につながっているかどうか、振り返るようにする。

○ごみを出さないために自分ができる工夫とともに、家の人と協力してできる工夫について話し合い、具体的な行動を考えるようにする。

(具体例)

- ・買物袋を持っていき、レジ袋をもらわないようにする。
- ・詰め替え商品やコンパクト商品などを選ぶ。
- ・再生品を選ぶ。
- ・ばら売りや量り売りの商品を選ぶ。
- ・長寿命製品や修理が容易な製品など、ごみになりにくい製品を選ぶ。
- ・使い捨て商品の使用を控える。
- ・食品の品質や期限表示をこまめにチェックする。
- ・家で食べる弁当を買うときには、家の箸を使うようにして、割り箸をもらうのを断る。
- ・地域や学校などで、ごみの減量活動に取り組む。

○企業がおこなっている取り組みについても調べ、ごみを出さないことで環境に配慮しようという動きが、社会全体に広がってきていることに気付くようにする。

⑥ ごみをへらすためにわたしたちにできること

3つの考え方

家庭や会社や店では、どのようにすればもっとごみをへらすことができるのかを考えることが大切です。そのための方法として、1.リデュース、2.リユース、3.リサイクルがあります。

①リデュース

物を作るときや買うときに、できるだけごみが出ないようにすることがリデュースになります。



3Rのことば
①リデュース (Reduce) = ごみを出さない、減らす。②リユース (Reuse) = 再利用する。③リサイクル (Recycle) = 再生利用する。の頭文字をとって3R(スリーアール)といいます。

(具体例)

- ・寿命の長い製品を設計・開発する。
- ・流通用梱包材は、繰り返し使用できるものを使う。
- ・パックにした食品を販売するのではなく、ばら売りし、必要な分だけ買えるようにして消費者が包装方法を選択できるようにする。
- ・割り箸ではなく、何度も使える箸を使用し、使い捨て商品の使用を控える。

教科との関連

社会 指導計画(第13次試案):
第4学年 2住みよいくらしとごみ
(11)(12)へらそうごみ
～わたしたちにできること～

2 へらそうごみ

⑥ごみをへらすためにわたしたちにできること(つづき)

○プラスチックが日々の生活を豊かにしてくれる一方で、プラスチックごみによる環境汚染が世界の課題となっていることを知り、プラスチックごみを減らすための身近な行動を考えるようにする。

(具体例)

- ・買い物の際、レジ袋を使用することのないよう、エコバッグを携帯する。
- ・外出するときは水筒を持ち歩き、ペットボトルなどの使い捨てプラスチックを使わないようにする。

◆「おおさかプラスチックごみゼロ宣言」の具体的な取組みについて

- ・大阪市としてのプラスチックごみ削減目標を策定。
- ・エコバッグを常に携帯する運動「大阪エコバッグ運動」の推進。
- ・新たなペットボトル回収・リサイクルシステム「みんなでつなげるペットボトル循環プロジェクト」の推進。
- ・3Rの更なる推進に向け、協力事業者・市民団体と「レジ袋削減協定」を締結。

○食品ロスとは何か、大阪市ではどれだけの食品ロスが出ているのかを知ることで、食品ロス問題への関心を持ち、その実態を知って自分にできることを考えるようにする。

(具体例)

- ・料理は、好き嫌いなく残さず食べる。
- ・消費期限、賞味期限について理解し、まだ食べられる食品を捨てない。

○ごみをへらすために、自分でできることや家庭の人に協力してもらえることについて話し合い、具体的な行動を考えるようにする。

(具体例)

- ・食品トレイや牛乳パックなどは、販売店などの店頭回収に出す。
- ・乾電池・蛍光灯管・水銀体温計・インクカートリッジなどは区役所やスーパーマーケットなどの回収ボックスに出す。
- ・新聞・雑誌などの古紙や古布は、地域の資源集団回収や分別収集などに出す。

◆ごみ焼却量の削減

3Rの推進によるごみ焼却量の削減で、埋立処分場の延命化や温室効果ガスの削減、古紙リサイクルによる森林保護などにつながる。

「食品ロス」とは

手つかずのまますてられる食品や食べ残しといった、むだにすてられる食品を「食品ロス」といいます。

大阪市内では、年間およそ4万トン。これは毎日、ごみ収集車70台分の食料をむだにすてていることになります。市民1人あたりにすると、年間でごみ袋(45リットル)2袋分に相当します。

みなさんの給食から食べ残しが出れば、「食品ロス」になるのです。「食品ロス」をなくすためのリデュースの取り組みの一つとして、生ごみの3きりがあります。

① 使いきり

食材を「チェック!」必要な分だけ買う! ミニバザーで惣メニュー!

② 食べきり

料理は残さず食べきりましょう! コマメに「保存!」注意! 作りすぎない!

③ 水きり

ごみを出すときは水気をきりましょう! 洗濯機で洗う! 水きりをする! かわかす!

プラスチックごみが大敵

大阪市の家庭ごみには、プラスチック類が約15%を占めています。年間およそ6万7千トン(1日あたりごみ収集車115台分)です。

今、世界中で、使い捨てのプラスチックごみが問題になっているのを知っていますか? たとえば、だれかが捨てたプラスチックの袋は、一度海へ流れこむと、海にたまたまごみとなります。そのごみを見つけたツミガメが、好物のクラゲとまちがえて食べてしまい、中にはそのままエサを食べられずに死んでしまうものもあるなど、海の生き物に悪い影響をおよぼすことがあります。

レジ袋やストローのように、わたしたちの生活を便利にしてくれるプラスチック製品は、なるべく使わないように心がけたり、「まぜればごみ、分ければ資源」という意識をもって、ごみの分別に取り組んだりすることが大切です。

② リユース

ごみの中には、びんなどのように、くりかえし何度も利用できるものがあります。このようなものを何度も利用することがリユースです。

③ リサイクル

アルミかんや古新聞などを、回収して加工することで、新しい製品を作ることをリサイクルといえます。ごみを正しく分別して出すと、ごみがへるだけでなく、エネルギーや資源のせつやくにもなります。

(具体例)

- ・一升びんやビールびんなど何度も再使用される容器(リターナブル容器)に入った製品や、液体石けん・洗剤などは詰め替え使用できる製品を選ぶ。
- ・レンタル品や中古品を利用する。

(大阪市の取り組み)

- ・ガレージセールの開催
- ・マタニティウェア、ベビー服、子ども服の回収と展示・提供
- ・資源集団回収への支援

○ノートなどを提示し身近にある再生品(Rマーク、エコマーク、グリーンマークなどがついた製品)について調べ、ごみが資源として生まれ変わることに気付くようにする。

Rマーク

古紙パルプ配合率100%再生紙を推奨

古紙パルプの配合率を示したマークです。

エコマーク

環境にやさしい商品につけているマークです。

グリーンマーク

古紙を原料に利用した製品であることを示したマークです。

◆3R(スリーアール)について

3Rとは、ごみを限りなく少なくし、そのことでごみの焼却や埋立処分による環境への悪い影響を極力減らして環境を保護し、限りある地球資源を有効に繰り返し使う社会(=循環型社会)をつくらうとする活動のこと。他にも4Rや5Rという考え方があるが、大阪市は3Rという考え方である。特に、3Rのうち、Reduce, Reuseの2Rをすすめている。

循環型社会形成推進基本法におけるごみ処理の優先順位

- ①リデュース(REDUCE) 廃棄物になるものの発生抑制
- ②リユース(REUSE) 製品をくりかえして使用する
- ③リサイクル(RECYCLE) 廃棄物を分別排出し、資源として再生利用
- ④熱回収(サーマル・リサイクル) 資源として使えない場合は、燃やしてその熱を利用
- ⑤適正処分 最終的にごみになるものは適正に処分

2 へらそうごみ

⑦ごみの量をへらしてまちを美しく

① ごみの量や中身はどのようにうつりかわっているのでしょうか

ねらい

「処理したごみの量と市民1人が1日に出すごみの量のうつりかわり」と「ごみの中身のうつりかわり」のグラフについて調べ、大阪市のごみの量の変化をとらえとともに、人びとの生活の変化にともなって、ごみの種類も変わってきていることや、ごみを減らすための動きがはじまったことを理解できるようにする。

留意点

- 「処理したごみの量と市民1人が1日に出すごみの量のうつりかわり」のグラフをもとに1991年からごみは減少していることに気付くようにする。
- 市民1人が1日に出すごみの量に着目し、その理由を考えるようにする。
- 大阪市のごみのうつりかわりの特色をとらえ、そのわけを自分の生活を振り返りながら考えるようにする。

教科との関連

社会 指導計画(第13次試案):
第4学年 2住みよい暮らしとごみ
(11)(12)へらそうごみ
～わたしたちにできること～

⑦ごみの量をへらして、まちを美しく(つづき)

② まちを美しくするにはどうすればいいのでしょうか

ねらい

まちを美しくするために、大阪市が取り組んでいる活動について調べ、わたしたちにできることを考えるとともに、人々が協力して美しいまちづくりを進めることの大切さに気付くようにする。

留意点

- 自分たちのくらしているまちの公園や道路で、よく捨てられているごみの種類や量について見たり、そうじしたりした経験から知っていることについて話し合い、美化活動の学習への意欲を持つようにする。
- 大阪市がまち美化推進に向けて、様々な制度や活動などの取り組みを行っていることに気付くようにする。
- 日頃ポイ捨てをしていないか振り返り、自分がごみを散らかさないためにどうすればよいかを考えるようにする。また、まちの美化に対しても自分が積極的にできることはないか、自分が実践していることや、地域の美化活動を想起しながら具体的な行動を考えるようにする。
- まちの美化が、市役所だけでは解決できない問題であり、大阪市でくらす人々一人ひとりが美化意識を高め、美化を推進していく必要があることについて気付くようにする。

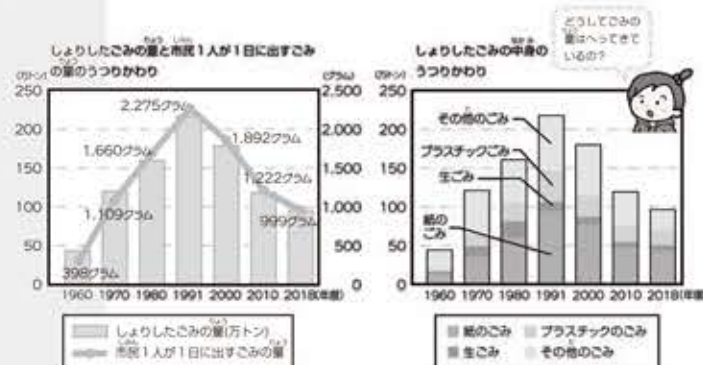
⑦ ごみの量をへらしてまちを美しく

① ごみの量や中身はどのようにうつりかわっているのでしょうか

今から60年ほど前の1960年ごろから、物を作る工業の発展とともに、生活用品などを大量に使ってはずえるという生活のしかたが広まってきました。それにつれて、大阪市のごみも急激にふえ始め、1991年度には最も多くなりました。その後、分別収集によって、一部のごみをリサイクルに回すようになったことや、ごみをへらす運動がはじまったこともあって、しゅりしたごみの量はしだいにへってきました。

大阪市がしゅりしたごみの量は、2018年度で、1年間におよそ93万トンになります。

せいけつで安全な生活を送るために、また、環境を守るためにも、わたしたちはごみをへらす努力を続けることが大切です。



② まちを美しくするにはどうすればいいのでしょうか

近くの公園や道路で、ごみがすてられているのを見かけることがあります。

わたしたちのまちを、ごみのない美しいまちにするには、どうすればいいのでしょうか。

ごみのポイ捨て防止

大阪市では、まちをもっときれいにするために「ポイ捨て防止条例」を定め、1995年から、これまで以上に市民の協力を呼びかけています。

ノーポイモデルゾーン(指定区域)

一日中、人の行き来が多い駅のまわりや、店などが集まっているにぎやかな場所を「ノーポイモデルゾーン」に決めています。

ボランティア清掃

まちの人たちや会社で働く人たちなど、たくさんの人たちが連日、道路に落ちているごみを集めたり、よごれているところをそうじしたりして、まちを美しくする活動を行っています。

美化強化デー(毎月1日)

毎月1日を「美化強化デー」として、まちの人たちや会社で働く人たちにそうじをよびかけています。

路上喫煙防止のとりくみ

大阪市では、2007年に「路上喫煙の防止に関する条例」を定め、すいがらのポイ捨てにつながる歩きタバコをなくすようよびかけています。



◆大阪市のごみ減量の目標

大阪市のごみ処理量は、廃棄物等の発生抑制、再利用や再生利用の取組を積極的に推進してきた結果、減少傾向にあるが、2018年度のごみ処理量は93万トン(2017年度90万トン)で、前年度から横ばいとなっている。

大阪市では、2016年3月に改定した一般廃棄物処理基本計画の計画目標である「令和7年度のごみ処理量:84万トン」の達成に向け、これまでの減量施策に加え、市民・事業者・大阪市の連携のもと、ごみの発生抑制や再利用の取組(2R)をより一層進め、ごみ減量の流れを継続・発展させることとしている。

令和7年度ごみ処理量 84万トン

■基本方針

- 2Rを優先した取組の推進
 - (1) 分かりやすい情報提供と環境教育・普及啓発
 - (2) 生ごみの減量
 - (3) 市民・事業者・行政による取組の推進
- 分別・リサイクルの推進
 - (1) 家庭系ごみ対策
 - (2) 事業系ごみ対策
- 環境に配慮した適正処理と効率的な事業の推進
 - (1) 環境に配慮した適正処理の推進
 - (2) ごみ処理事業の一層の効率化と安全かつ安定した体制の整備
 - (3) 3Rや適正処理の推進に係る検討

◆まちを美しくするための大阪市の取り組み

ボランティアの活動と連携しながら、まちの美化を推進していることを理解できるようにする。

- ・ポイ捨て防止条例
- ・ノーポイモデルゾーンの設置(ターミナルや繁華街)
- ・まち美化パートナー制度
- ・美化強化デー(毎月1日)
- ・大阪市路上喫煙の防止に関する条例
- ・路上喫煙禁止地区の指定
- ・たばこ市民マナー向上エリア制度

2 へらそうごみ

⑧ごみしよりにたずさわっている人びとの気持ち

① 働いている人びとにはどんな願いや苦勞があるのでしょうか

教科との関連

社会 指導計画(第13次試案):
第4学年 2住みよいくらしとごみ
(7)ごみ処理にたずさわる
人びとの思い

ねらい

ごみの収集や処理に携わる人々の話を通じて、働く人の努力や苦勞に気付き、働く人の思いや願いを理解するようにする。

留意点

- OP14の「ごみを出すときのやくそく」をふり返った後に、働く人の話を読み、その努力や苦勞について話し合うようにする。
- 働く人の思いを考えてふきだしにして書くことにより、思いや願いに迫るようにする。
- 国語科の手紙を書く学習を活用し、働く人たちにお礼の手紙を書く活動を取り入れるのもよい。

◆ごみについての出前授業と 焼却工場の見学

職員と接する機会でもある出前授業と工場見学をぜひご利用ください。
(巻末資料P64参照)

⑧ごみしよりにたずさわっている人びとの気持ち(つづき)

② みんなで考えてみよう

ねらい

ごみの収集や処理に携わる人びとに対する誤った見方や考え方について考え、正しい職業観を持つようにするとともに、人権を大切にしたい生き方が重要であることを理解し、自分としてどうすればよいかを考えるようにする。

留意点

- これまでの学習をふり返り、ごみを処理する人々の仕事が市民の生活に欠かすことのできない大切な仕事であることを確認する。
- 「ごみを集めている人の話」を読んで、ごみ処理の仕事にたずさわる人々に対する誤った見方や考え方について問題意識を持つようにする。
- ごみ処理は人びとの生活に関わる大切な仕事であること、それらの仕事をしている人々の苦勞や願いについて理解できるようにし、さまざまな仕事

② みんなで考えてみよう

ごみを集めている人の話

ごみを集めている時、バツカーを見て、鼻をつまみ、「くさいな、早くここへ行けばいい」と言われたことがあります。

わたしたちはみんなが出したごみをしよりにして、気持ちよくくらせるように、毎日あせを流してがんばっています。それなのに、なぜこんなことを言われるのかと思うと、悲しい気持ちになります。

もしわたしたちがごみを集めて、しよりにしないと、まちじゅうがごみだらけになってしまいます。子どもたちとも、みんなもう一度、よく考えてほしいと思います。

ごみは「きたない」「くさい」という思いこみから、それをしよりにしている人々に対して、まちがった考えを持つ人がいます。その結果、上でしょうかいした話のように、つらく悲しい思いをしている人がいます。

しかし、ごみを出しているのは、わたしたち全員です。わたしたちが健康で気持ちよくくらしていくうえで、ごみのしよりにたずさわる人々の働きは、たいへん大きなものがあります。

人びとの環境とくらしを守る仕事や、そこで働く人々に対する正しい考えを持つことが、お互いが大切にされた明るい社会をつくるうえで、とても大切なことです。

ごみの問題は、毎日の生活と深いかわりがあるので、学習したことをもとにおうちの人たちともよく話し合ってみましょう。

ごみをへらすために、できることや、考えたことを書きましょう。

